最終更新日：2026 年 9 月 24 日

書 名：環境計量士試験［騒音振動・共通］　合格問題集
発 行：2021 年 7 月 5 日　第 1 版第 1 刷発行
ISBN：978-4-274-22740-0

発生刷数	頁数位置	正誤内容	
		誤	正
1 刷	P.155 問題 3 1 の解説 1 行目	40B	40dB
1 刷	P.155 問題 3 3 の解説 2 行目	$2^{(50-40)10}$	$2^{\frac{50-40}{10}}$
1 刷	P.202 問題 1 1 の解説 3 行目	62dB（中略）22dB	62phon（中略）22phon
1 刷	P.203 問題 1 2 の解説 7 行目	$2^{\frac{L_n-10}{10}}$	$2^{\frac{L_n-40}{10}}$
1 刷	P.203 問題 1 2 の解説 7 行目	L_n：音の大きさのレベル	L_n：音の大きさのレベル （sone（ソーン）：1kHz，40dB の純音を基準音とする比率尺度）
1 刷	P.203 問題 1 2 の解説 9 行目	$\frac{2^{\frac{L_n+10-10}{10}}}{2^{\frac{L_n-10}{10}}}$	$\frac{2^{\frac{L_n+10-40}{10}}}{2^{\frac{L_n-40}{10}}}$
1 刷	P.218 問題 2 3 の解説 2 行目	許容限度値	受容限度値
1 刷	P.267 問題 7 2 の解説 3 行目	もはや減衰することなく	c_c以上の抵抗になると，もはや振動することなく

1刷 ～3刷	P.288 問題2 の解説	【3行目】＋0.1Hz　→66Hz＋0.1≒66Hz 【4行目】－6.1Hz　→66Hz－6.1Hz≒60Hz 【6-7行目】66Hz＋1dB＝67Hz	【3行目】＋0.1dB　→66dB＋0.1dB≒6dB 【4行目】－6.1dB　→66dB－6.1dB≒60dB 【6-7行目】66dB＋1dB＝67dB
1刷 ～3刷	P.298 問題1 5の解説	鉛直振動と水平振動とも 1～8Hz の振動レベルは約90dB となりほぼ同じ大きさに感じる.	振動加速度の大きさが同じであれば，鉛直と水平の振動レベルは次頁の表の補正値の大きさで決まる. 周波数か1Hz から 3.15Hz 未満までは，水平振動の方が鉛直振動よりも大きく感じ，3.15Hz で同じに感じる. 3.15Hz を超えると、鉛直振動の方が水平振動よりも大きく感じる.
1刷	P.308 問題2 の解説 表中「音圧レベル」の項目	ニ　レベルレコーダ（31.5Hz から 8,000Hz までの周波数範囲において，記録できるレベル範囲が 50dB 以上のものに限る.） ホ　オクターブバンド分析器又はこれと同じ若しくはより高い性能を有する周波数分析器（31.5Hz から 8,000Hz までの範囲の周波数を分析できるものに限る.） ヘ　$\frac{1}{3}$オクターブバンド分析器又はこれと同じ若しくはより高い性能を有する周波数分析器(20Hz から 12,500Hz までの範囲の周波数を分析できるものに限る.） ト　データレコーダ（50Hz から 8,000Hz までの周波数範囲において，50dB 以上のレベル範囲で，正負 1dB 以内の偏差で記録できるものに限る.）	ニ　レベルレコーダ又はこれと同等の機能を有する装置若しくはソフトウェア ホ　オクターブバンド分析器又はこれと同等以上の性能を有する周波数分析器若しくはソフトウェア ヘ　$\frac{1}{3}$オクターブバンド分析器又はこれと同等以上の性能を有する周波数分析器若しくはソフトウェア ト　データレコーダ又はこれと同等の機能を有する装置若しくはソフトウェア
1刷	P.308 問題2 の解説 表中「振動加速度レベル」の項目	ロ　レベルレコーダ（1Hz から 80Hz までの周波数範囲において，記録できるレベル範囲が 50dB 以上のものに限る.） ハ　$\frac{1}{3}$オクターブバンド分析器又はこれと同じ若しくはより高い性能を有する周波数分析器（1Hz から 80Hz までの範囲の周波数を分析できるものに限る.） ニ　データレコーダ（1Hz から 80Hz までの周波数範囲において，45dB 以上のレベル範囲で，正負 1dB 以内の偏差で記録できるものに限る.）	ロ　レベルレコーダ又はこれと同等の機能を有する装置若しくはソフトウェア ハ　$\frac{1}{3}$オクターブバンド分析器又はこれと同等以上の高い性能を有する周波数分析器若しくはソフトウェア ニ　データレコーダ又はこれと同等の機能を有する装置若しくはソフトウェア
1刷	P.346 問題2 イの解説 1行目	検証印が付されていない	検証印が付されている